

黒田孝郎著、小島順著、野崎昭弘著、森毅著「高等学校の確率・統計」

ちくま学芸文庫、ちくま書房 2011年7月10日刊を読む

高等学校の確率・統計

1. 数学というと、きっちり定まった結果の出てくるもの、という印象をきみたちはもっているかもしれない、そうした考えからすると、多くの要因の重なった集団で結果がきっちり定まらない、あいまいな現象というのは、数学となじまないような気がするだろう。しかし、そうしたあいまいな現象にも一定の法則性がある以上は、そこに数学がある。それが、この教科書のめざすものである。
2. この教科書を学ぶことによって、数学についての印象がゆたかになってもらえれば、とてもうれしい。数学というものにも、いろいろの顔があるのだ。
3. こういうと、いままでに学んできた数学とは、また別のように考えられるかもしれない。じつはそうではなく、『基礎解析』と『微分・積分』、そして『代数・幾何』とも、深くかかわりあっている。しかし、この教科書は原則としてそれらの科目と独立に学ぶようになっているので、他の科目のうえに学ぶようにはなっていない。この教科書をさらに発展させて学ぶときに、そうした面が必要になるのである。他の科目と違う性格の数学とは、あまり思いこまないでほしい。
4. 現在の社会では、大量現象が処理されることが多く、それらについての判断が必要になってくる。その意味では、この教科書の内容は、現代の人間が生きていくことに、とくに関係が深くもある。それを「世間の常識」にしたがっているだけでは、判断を誤ることが多い。実際に統計を利用する必要に出あう場も多いし、そうでなくとも、現代の社会を理解するために、この教科書の数学を利用してほしい。

[コメント]

1984年に三省堂から出版された高校教科書の復刊。小学校、中学校、高校のすべての科目の教科書とその指導書を本書のような形で復刊してもらいたいと切望する。とにかく「よくわかる」の一語だ。

— 2011年9月30日 林 明夫記 —